

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果

（2016年9月調査）

2016年10月

株式会社 日通総合研究所

目次

I. 調査の内容.....	1
II. 調査の結果.....	3
1. 調査結果の概要.....	3
2. 国内向け出荷量の動向.....	5
3. 輸送機関利用の動向.....	9
(1) 一般トラック.....	10
(2) 特別積合せトラック.....	11
(3) 宅配便.....	12
(4) 鉄道コンテナ.....	13
(5) 内航コンテナ・RORO船.....	14
(6) 国内航空.....	15
4. 輸出入貨物量の動向.....	16
(1) 外資コンテナ ー輸出ー.....	17
(2) 外資コンテナ ー輸入ー.....	19
(3) 国際航空 ー輸出ー.....	21
(4) 国際航空 ー輸入ー.....	23
5. 在庫量と営業倉庫利用の動向.....	25
(1) 在庫量 ー原材料ー.....	26
(2) 在庫量 ー製品ー.....	27
(3) 営業倉庫保管量.....	28
6. 運賃・料金の動向.....	29
(1) 一般トラック運賃.....	30
(2) 特別積合せトラック運賃.....	31
(3) 鉄道コンテナ運賃.....	32
(4) 内航コンテナ・RORO船運賃.....	33
(5) 国内航空運賃.....	34
(6) 営業倉庫保管料金.....	35
7. 物流コスト割合の動向.....	36

I. 調査の内容

目的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

—今回調査の回収・集計状況—

今回調査は、2016年7～9月の実績と2016年10～12月の見通しを9月初旬時点でうかがったものであり、1,014社からご協力をいただき、回答率は40.6%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

調査対象企業数と回答企業数

業 種		調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率(%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	234	107	45.7
	繊 維 ・ 衣 服	111	34	30.6
	木 材 ・ 家 具	90	39	43.3
	パ ル プ ・ 紙	109	44	40.4
	化学・プラスチック	239	115	48.1
	窯 業 ・ 土 石	102	38	37.3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	195	96	49.2
	金 属 製 品	128	52	40.6
	一 般 機 械	222	93	41.9
	電 気 機 械	333	114	34.2
	輸 送 用 機 械	251	101	40.2
	精 密 機 械	69	29	42.0
	そ の 他	167	58	34.7
	計	2,250	920	40.9
卸 売 業	生 産 財	124	45	36.3
	消 費 財	126	49	38.9
	計	250	94	37.6
合 計		2,500	1,014	40.6

Ⅱ. 調査の結果

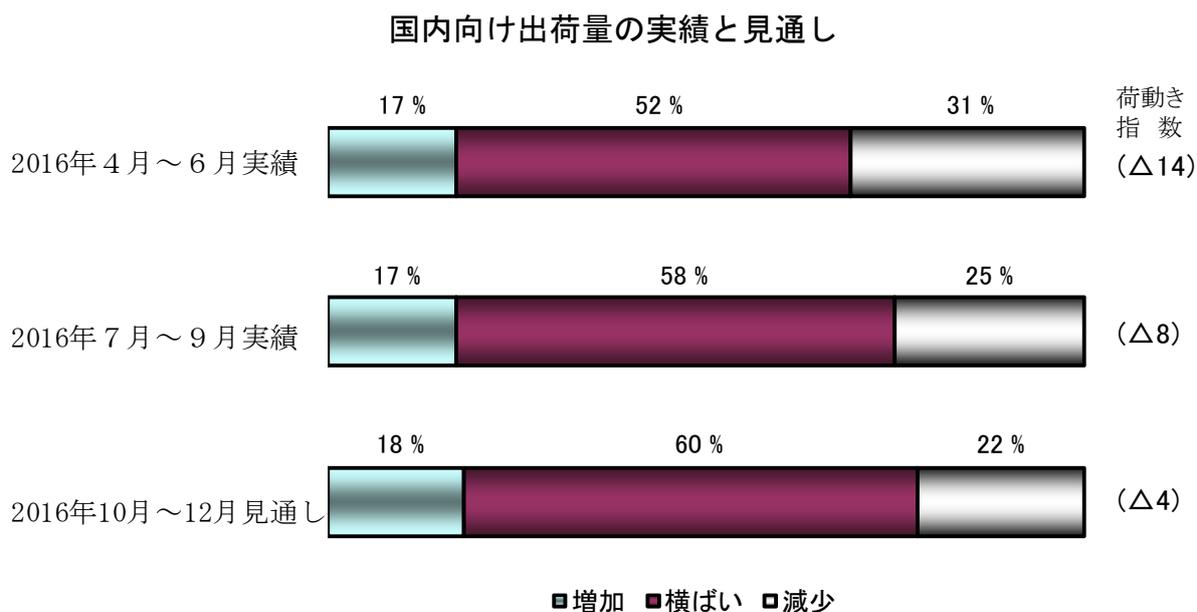
－ 1. 調査結果の概要－

- 7～9月実績（見込み）の国内向け出荷量『荷動き指数』は△8と、前期（4～6月）実績の△14から6ポイント上昇した。また、10～12月見通しでは△4と緩やかな改善が見込まれている。
- 業種別『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、全15業種11業種において改善したが、プラスの業種はパルプ・紙および金属製品のみとなった。10～12月見通しでは、10業種において改善の動きがみられるものの、プラスの業種は4業種にとどまる見込みである。
- 地域別『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、8地域において改善したが、プラスの地域は北海道のみとなった。10～12月見通しでは、7地域において改善の動きがみられるものの、プラスの地域は北陸・信越、中国、九州・沖縄の3地域にとどまり、回復の足取りは依然として鈍い。
- 輸送機関別『利用動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、全輸送機関で改善したが、全輸送機関において、引き続き『利用動向指数』はマイナスを示している。10～12月見通しでは、引き続き全輸送機関で『利用動向指数』がマイナスとなるが、内航コンテナ・RORO船では△1、一般トラック、鉄道コンテナでは△3と水面近くまで戻す見込みである。
- 輸出入貨物量『荷動き指数』については、7～9月実績（見込み）では、外貿コンテナの輸入、国際航空の輸入において上昇する一方、外貿コンテナの輸出、国際航空の輸出では横ばいで推移し、『荷動き指数』は全輸送機関でマイナスを示した。10～12月見通しでは、外貿コンテナの輸出、国際航空の輸入において『荷動き指数』が横ばいで推移する一方、外貿コンテナの輸入、国際航空の輸出では悪化が見込まれ、引き続き全輸送機関でマイナスとなる。
- 在庫量と営業倉庫保管量の『動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、営業倉庫保管量においてプラス、製品在庫でゼロ水準、原材料在庫ではマイナスとなった。10～12月見通しでは、製品在庫、営業倉庫保管量では『動向指数』がプラス、原材料在庫では小幅なマイナスとなり、在庫調整の遅れがうかがえる。

- 運賃・料金水準『動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、鉄道コンテナ、内航コンテナ・RORO船、国内航空において横ばいで推移する一方、一般トラック、特別積合せトラック、倉庫保管料では低下した。『動向指数』は、内航コンテナ・RORO船、国内航空以外の機関においてプラスとなった。10～12月見通しでは、特別積合せトラック、倉庫保管料において横ばいで推移する一方、その他の機関では小幅ながら上昇する。内航コンテナ・RORO船、国内航空で『動向指数』がゼロ水準にとどまる以外は、残りの4機関ではプラスを維持し、運賃・料金の緩やかな上昇基調に変化はない。
- 売上高に対する物流コスト割合の『動向指数』については、7～9月実績（見込み）では、全15業種がプラスとなった。業種全体の『動向指数』はプラス10で、前期実績から強含み横ばいで推移した。10～12月見通しでは、輸送用機械がマイナスに沈み、木材・家具もゼロ水準に下降する。業種全体の『動向指数』はプラス9と弱含み横ばいの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。

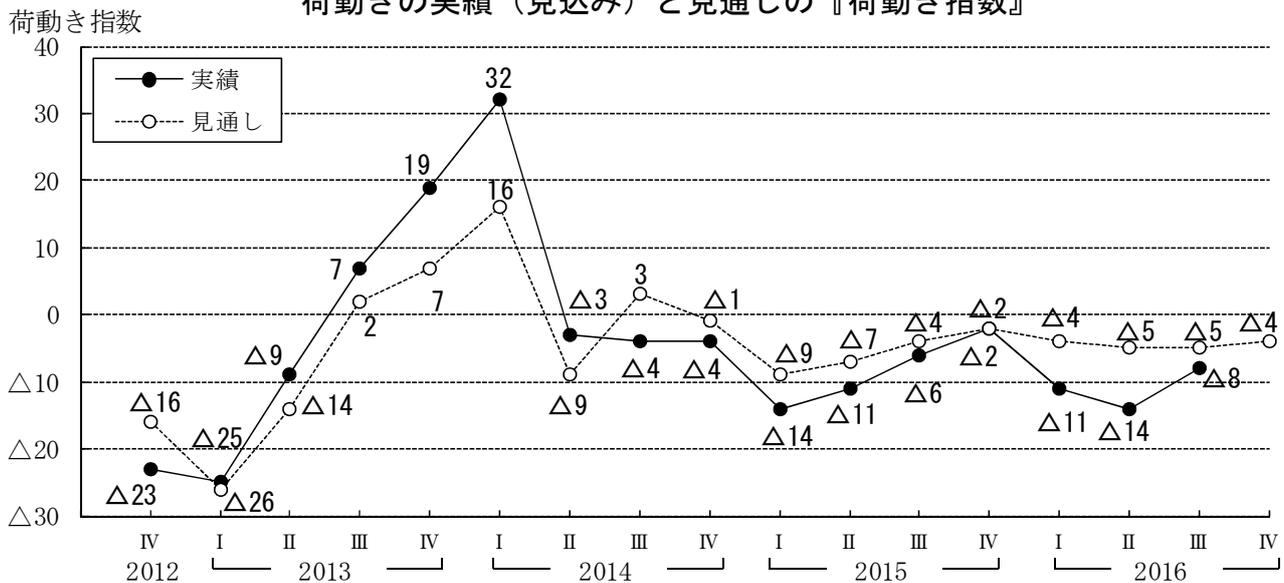
－ 2. 国内向け出荷量の動向－

- 7～9月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（4～6月）実績から横ばいで推移し17%となった。一方、「減少」との回答は前期より6ポイント低下して25%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は6ポイント上昇して△8となった。
- 10～12月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（7～9月）実績（見込み）から強含み横ばいで推移し18%となる一方、「減少」との回答は3ポイント低下し22%になる。この結果、『荷動き指数』は4ポイント上昇して△4と見込まれる。



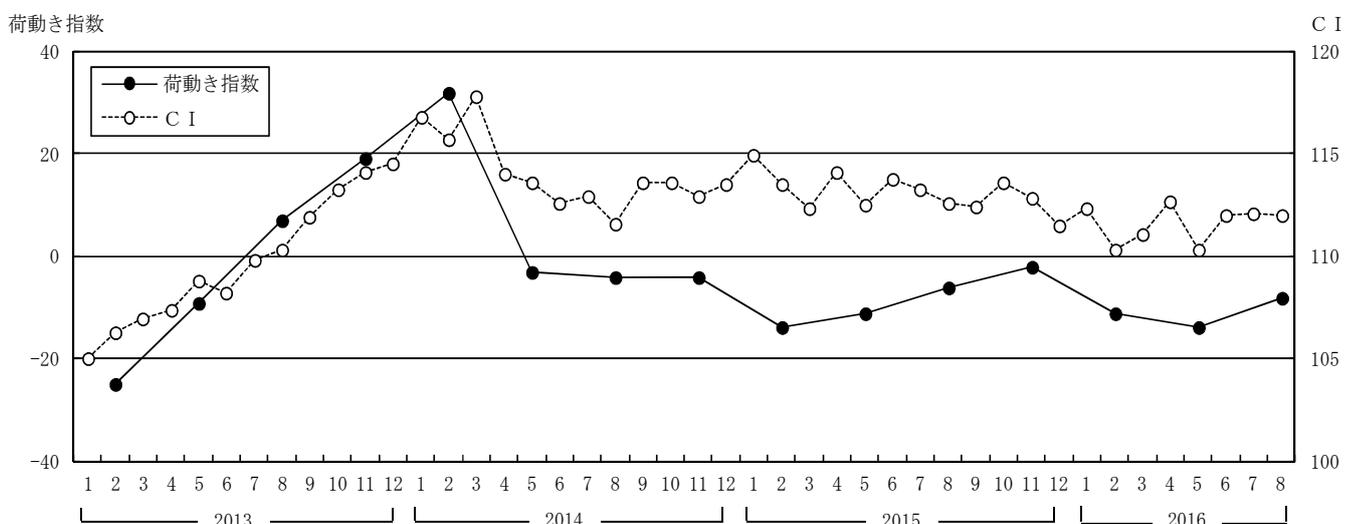
■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、駆け込み需要の反動などから2014年4～6月実績において△3と水面下に沈み、以降マイナスの推移が続いている。2015年1～3月実績では、前年同期における大幅な盛り上がりの反動もあって、△14と一段の悪化がみられたが、この時点を底に緩やかながら改善方向に動き、10～12月実績では△2まで戻した。しかし、2016年1～3月実績、4～6月実績では再び悪化に向かい、“二番底”を探る展開となった。なお、7～9月実績（見込み）、10～12月見通しでは緩やかな改善がみられる。

荷動きの実績（見込み）と見通しの『荷動き指数』



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』(2016年IV期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し)、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』(2016年III期の『荷動き指数』は今回調査における判断)。

景気動向指数（C I；一致指数）と国内向け出荷量『荷動き指数』（実績）の推移



注) 1. 荷動き指数は四半期ごとの数値のため、2月、5月、8月、11月の位置にプロットしている。
2. 景気動向指数研究会によると、第15循環における景気の山は2012年3月、景気の谷は2012年11月となっている。

■ 7～9月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、**全15業種中11業種において前期（4～6月）実績より改善した。**ただし、プラスの業種はパルプ・紙および金属製品のみであり、食料品・飲料がゼロ水準で、残り12業種がマイナスとなった。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、食料品・飲料および化学・プラスチックがプラスに浮上し、消費財卸もゼロ水準まで戻すなど10業種において改善の動きがみられる。ただし、**プラスの業種は4業種にとどまり、1業種がゼロ水準で、10業種がマイナスになる見込みである。**

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	103	28	52	20	8	104	22	56	22	0	104	21	60	19	2
	繊維・衣服	36	16	42	42	△ 26	34	12	47	41	△ 29	34	21	50	29	△ 8
	木材・家具	36	19	50	31	△ 12	39	18	54	28	△ 10	39	21	51	28	△ 7
	パルプ・紙	51	25	57	18	7	43	19	70	11	8	43	21	65	14	7
	化学・プラスチック	111	17	60	23	△ 6	114	15	64	21	△ 6	114	15	73	12	3
	窯業・土石	36	11	47	42	△ 31	38	18	50	32	△ 14	37	11	51	38	△ 27
	鉄鋼・非鉄	99	16	49	35	△ 19	94	16	56	28	△ 12	94	20	59	21	△ 1
	金属製品	51	16	57	27	△ 11	52	15	72	13	2	52	27	60	13	14
	一般機械	96	13	58	29	△ 16	91	19	56	25	△ 6	91	17	54	29	△ 12
	電気機械	112	16	46	38	△ 22	109	20	46	34	△ 14	109	16	54	30	△ 14
	輸送用機械	99	10	53	37	△ 27	96	15	61	24	△ 9	95	18	60	22	△ 4
	精密機械	31	13	58	29	△ 16	29	21	48	31	△ 10	29	20	52	28	△ 8
	その他	61	21	49	30	△ 9	56	16	66	18	△ 2	56	14	70	16	△ 2
計	922	17	53	30	△ 13	899	17	58	25	△ 8	897	18	60	22	△ 4	
卸売業	生産財	41	19	44	37	△ 18	44	16	50	34	△ 18	44	23	52	25	△ 2
	消費財	53	17	53	30	△ 13	48	16	63	21	△ 5	48	13	74	13	0
	計	94	18	49	33	△ 15	92	16	57	27	△ 11	92	17	65	18	△ 1
合計	1,016	17	52	31	△ 14	991	17	58	25	△ 8	989	18	60	22	△ 4	

■ 7～9月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、北海道で唯一プラスを示したが、残り8地域ではマイナスとなった。前期（4～6月）実績との比較では、**四国で悪化の動きがみられる一方、残りの8地域では改善した。**

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しについては、北海道で悪化し、近畿では横ばいとなる一方、残り7地域において改善の動きがみられる。ただし、**プラスの地域は北陸・信越、中国、九州・沖縄の3地域にとどまり、回復の足取りは依然として鈍い。**

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

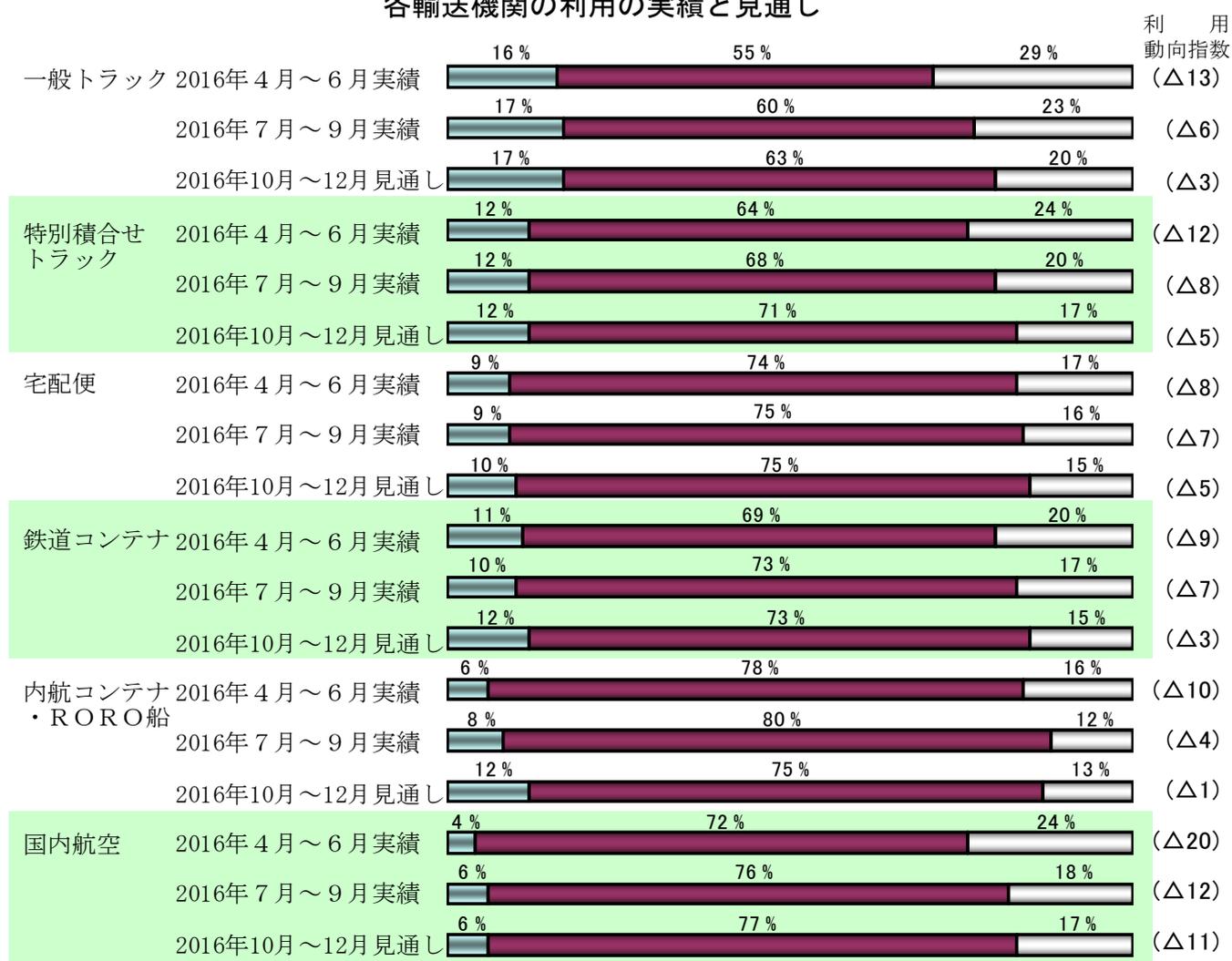
地 域	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北海道	46	28	55	17	11	47	26	60	14	12	47	15	66	19	△ 4
東 北	102	15	52	33	△ 18	89	19	54	27	△ 8	89	22	52	26	△ 4
関 東	263	19	46	35	△ 16	259	16	56	28	△ 12	259	19	59	22	△ 3
北陸・信越	87	17	47	36	△ 19	80	15	59	26	△ 11	80	21	61	18	3
東 海	158	14	57	29	△ 15	161	17	57	26	△ 9	160	14	64	22	△ 8
近 畿	154	18	53	29	△ 11	145	16	61	23	△ 7	144	15	63	22	△ 7
中 国	92	16	56	28	△ 12	90	18	61	21	△ 3	90	21	59	20	1
四 国	56	18	59	23	△ 5	53	13	61	26	△ 13	53	19	51	30	△ 11
九州・沖縄	58	15	59	26	△ 11	67	22	53	25	△ 3	67	21	63	16	5
合 計	1,016	17	52	31	△ 14	991	17	58	25	△ 8	989	18	60	22	△ 4

－ 3. 輸送機関利用の動向－

■ 7～9 月実績（見込み）の輸送機関別『利用動向指数』は、すべての輸送機関で前期（4～6 月）実績より改善した。ただし、すべての輸送機関において、引き続き『利用動向指数』はマイナスを示している。

■ 10～12 月の見通しでは、すべての輸送機関において改善方向に動く。引き続きすべての輸送機関で『利用動向指数』はマイナスとなるが、内航コンテナ・RORO船では△1、一般トラックおよび鉄道コンテナでは△3と水面近くまで戻す見込みであり、利用回復に向けた動きがうかがえる。

各輸送機関の利用の実績と見通し



■増加 ■横ばい □減少

(1) 一般トラック

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、パルプ・紙および金属製品がプラス、食料品・飲料およびその他の製造業がゼロ水準で、残り11業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から7ポイント上昇して△6となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、パルプ・紙がゼロ水準に下降する一方、化学・プラスチックなど4業種がプラスに浮上し、輸送用機械もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△3と3ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きは弱まるとみられる。

一般トラック利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	103	23	60	17	6	105	20	60	20	0	103	19	64	17	2
繊維・衣服	31	19	39	42	△23	29	14	52	34	△20	28	18	57	25	△7
木材・家具	37	16	54	30	△14	39	18	56	26	△8	39	20	54	26	△6
パルプ・紙	51	29	53	18	11	44	18	68	14	4	43	19	62	19	0
化学・プラスチック	110	16	60	24	△8	112	13	68	19	△6	111	14	75	11	3
窯業・土石	38	5	56	39	△34	36	22	50	28	△6	36	17	50	33	△16
鉄鋼・非鉄	99	17	51	32	△15	94	18	52	30	△12	93	20	58	22	△2
金属製品	55	16	59	25	△9	51	16	75	9	7	50	22	68	10	12
一般機械	97	12	60	28	△16	93	16	57	27	△11	92	17	51	32	△15
電気機械	108	14	50	36	△22	104	18	51	31	△13	104	14	62	24	△10
輸送用機械	98	11	56	33	△22	98	15	67	18	△3	98	19	62	19	0
精密機械	27	11	56	33	△22	26	12	50	38	△26	26	7	62	31	△24
その他	61	18	52	30	△12	57	16	68	16	0	57	14	75	11	3
計	915	16	55	29	△13	888	17	60	23	△6	880	17	63	20	△3
卸売業															
生産財	37	16	57	27	△11	41	14	59	27	△13	41	17	61	22	△5
消費財	51	16	57	27	△11	47	15	68	17	△2	47	15	74	11	4
計	88	16	57	27	△11	88	14	64	22	△8	88	16	68	16	0
合計	1,003	16	55	29	△13	976	17	60	23	△6	968	17	63	20	△3

(2) 特別積合せトラック

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、パルプ・紙、輸送用機械、消費財卸の3業種がプラスで、残り12業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から4ポイント上昇して△8となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、食料品・飲料がゼロ水準まで戻すなど7業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△5と3ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きはいくぶん弱まるとみられる。

特別積合せトラック利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	72	17	75	8	9	67	18	63	19	△1	66	17	66	17	0	
繊維・衣服	28	11	64	25	△14	25	8	56	36	△28	25	8	68	24	△16	
木材・家具	25	8	60	32	△24	26	7	62	31	△24	26	11	54	35	△24	
パルプ・紙	33	24	55	21	3	24	17	71	12	5	24	21	75	4	17	
化学・プラスチック	96	12	68	20	△8	102	13	71	16	△3	102	9	76	15	△6	
窯業・土石	29	7	69	24	△17	25	12	72	16	△4	25	4	84	12	△8	
鉄鋼・非鉄	68	12	62	26	△14	67	15	66	19	△4	66	13	67	20	△7	
金属製品	37	13	68	19	△6	35	11	75	14	△3	35	14	69	17	△3	
一般機械	69	7	63	30	△23	66	7	73	20	△13	64	11	69	20	△9	
電気機械	92	7	55	38	△31	89	10	59	31	△21	89	11	68	21	△10	
輸送用機械	74	8	68	24	△16	72	17	76	7	10	72	18	69	13	5	
精密機械	23	13	70	17	△4	21	10	52	38	△28	21	9	62	29	△20	
その他	47	19	53	28	△9	44	9	66	25	△16	44	9	73	18	△9	
計	693	11	64	25	△14	663	12	67	21	△9	659	12	70	18	△6	
卸売業	生産財	31	19	65	16	3	32	9	78	13	△4	32	6	78	16	△10
	消費財	39	21	62	17	4	35	17	74	9	8	35	11	83	6	5
	計	70	20	63	17	3	67	13	77	10	3	67	9	81	10	△1
合計	763	12	64	24	△12	730	12	68	20	△8	726	12	71	17	△5	

(3) 宅配便

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、パルプ・紙および消費財卸がプラス、窯業・土石がゼロ水準で、残り12業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は△7で、前期（4～6月）実績から強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、窯業・土石がマイナスに沈む一方、金属製品がプラスに浮上し、食料品・飲料およびその他の製造業もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△5と2ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きはいくぶん弱まるとみられる。

宅配便利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	82	6	81	13	△7	79	9	80	11	△2	79	13	74	13	0	
繊維・衣服	33	3	70	27	△24	31	6	62	32	△26	31	6	68	26	△20	
木材・家具	30	0	77	23	△23	32	9	72	19	△10	32	6	69	25	△19	
パルプ・紙	29	17	76	7	10	26	19	77	4	15	25	16	80	4	12	
化学・プラスチック	86	7	79	14	△7	89	5	79	16	△11	88	8	81	11	△3	
窯業・土石	28	4	82	14	△10	26	8	84	8	0	26	3	85	12	△9	
鉄鋼・非鉄	64	0	86	14	△14	61	8	76	16	△8	61	5	84	11	△6	
金属製品	48	12	73	15	△3	48	8	82	10	△2	47	11	81	8	3	
一般機械	92	8	74	18	△10	84	13	70	17	△4	83	11	71	18	△7	
電気機械	104	9	69	22	△13	101	10	72	18	△8	101	13	70	17	△4	
輸送用機械	82	2	85	13	△11	80	3	84	13	△10	79	5	84	11	△6	
精密機械	30	10	57	33	△23	28	7	50	43	△36	28	7	54	39	△32	
その他	54	22	65	13	9	48	10	73	17	△7	48	13	74	13	0	
計	762	7	76	17	△10	733	9	75	16	△7	728	9	76	15	△6	
卸売業	生産財	29	21	58	21	0	36	8	70	22	△14	36	14	61	25	△11
	消費財	40	20	65	15	5	41	22	66	12	10	41	17	78	5	12
	計	69	20	63	17	3	77	15	68	17	△2	77	16	70	14	2
合計	831	9	74	17	△8	810	9	75	16	△7	805	10	75	15	△5	

(4) 鉄道コンテナ

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、金属製品が唯一プラスを示し、輸送用機械がゼロ水準で、残り13業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△7と、前期（4～6月）実績から2ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、食料品・飲料および輸送用機械がプラスに浮上し、化学・プラスチックおよび鉄鋼・非鉄もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△3と4ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きは弱まるとみられる。

鉄道コンテナ利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	52	12	71	17	△5	44	11	73	16	△5	44	16	70	14	2	
繊維・衣服	11	9	73	18	△9	10	10	70	20	△10	10	10	70	20	△10	
木材・家具	16	6	56	38	△32	17	0	76	24	△24	17	11	65	24	△13	
パルプ・紙	35	26	48	26	0	29	10	69	21	△11	28	11	75	14	△3	
化学・プラスチック	78	14	72	14	0	81	13	72	15	△2	80	11	78	11	0	
窯業・土石	12	0	75	25	△25	16	12	63	25	△13	16	12	63	25	△13	
鉄鋼・非鉄	42	12	64	24	△12	40	14	68	18	△4	40	15	70	15	0	
金属製品	21	10	71	19	△9	22	18	73	9	9	22	23	68	9	14	
一般機械	33	0	79	21	△21	31	3	81	16	△13	31	3	81	16	△13	
電気機械	38	10	66	24	△14	34	8	71	21	△13	35	14	63	23	△9	
輸送用機械	37	2	76	22	△20	35	14	72	14	0	35	20	69	11	9	
精密機械	15	13	80	7	6	13	0	92	8	△8	13	0	92	8	△8	
その他	35	9	71	20	△11	25	4	76	20	△16	25	4	80	16	△12	
計	425	11	69	20	△9	397	10	73	17	△7	396	12	73	15	△3	
卸売業	生産財	9	11	78	11	0	8	0	88	12	△12	8	0	75	25	△25
	消費財	20	10	60	30	△20	21	5	76	19	△14	21	10	76	14	△4
	計	29	10	66	24	△14	29	3	80	17	△14	29	7	76	17	△10
合計	454	11	69	20	△9	426	10	73	17	△7	425	12	73	15	△3	

(5) 内航コンテナ・RORO船

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、繊維・衣服、パルプ・紙、輸送用機械の3業種がプラス、木材・家具など4業種がゼロ水準で、食料品・飲料、電気機械など8業種がマイナスを示した。業種全体の『利用動向指数』は、前期（4～6月）実績から6ポイント上昇して△4となった。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具および精密機械がマイナスに沈む一方、一般機械がプラスに浮上するなど7業種において改善の動きがみられる。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△1と3ポイント上昇する見通しであり、利用減退の動きは弱まるとみられる。

内航コンテナ・RORO船利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	33	6	88	6	0	33	3	82	15	△12	33	12	73	15	△3	
繊維・衣服	7	0	86	14	△14	7	29	57	14	15	7	43	43	14	29	
木材・家具	9	0	89	11	△11	10	10	80	10	0	10	0	90	10	△10	
パルプ・紙	21	19	71	10	9	19	21	74	5	16	18	28	72	0	28	
化学・プラスチック	57	9	79	12	△3	61	1	89	10	△9	61	6	84	10	△4	
窯業・土石	8	0	75	25	△25	11	0	82	18	△18	11	0	82	18	△18	
鉄鋼・非鉄	27	4	70	26	△22	23	13	70	17	△4	23	17	61	22	△5	
金属製品	16	0	94	6	△6	15	0	93	7	△7	15	0	93	7	△7	
一般機械	27	7	74	19	△12	28	18	64	18	0	28	21	61	18	3	
電気機械	37	3	73	24	△21	33	3	82	15	△12	33	6	82	12	△6	
輸送用機械	31	6	75	19	△13	30	20	77	3	17	30	23	70	7	16	
精密機械	12	8	75	17	△9	10	10	80	10	0	10	0	90	10	△10	
その他	24	4	75	21	△17	16	0	88	12	△12	16	0	75	25	△25	
計	309	6	78	16	△10	296	8	80	12	△4	295	11	76	13	△2	
卸売業	生産財	5	0	100	0	0	6	0	100	0	0	6	17	66	17	0
	消費財	11	0	73	27	△27	13	0	85	15	△15	13	8	77	15	△7
	計	16	0	81	19	△19	19	0	89	11	△11	19	10	74	16	△6
合計	325	6	78	16	△10	315	8	80	12	△4	314	12	75	13	△1	

(6) 国内航空

■ 2015年7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、化学・プラスチックが唯一プラスを示し、パルプ・紙および生産財卸がゼロ水準で、残り12業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△12と、前期（4～6月）実績から8ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、生産財卸がマイナスに沈む一方、輸送用機械がゼロ水準まで戻す以外に大きな動きはみられない。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△11と強含み横ばいで推移する見込みであり、利用は引き続き減退するものの、減退の動きはいくぶん弱まるとみられる。

国内航空利用の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	25	0	68	32	△ 32	20	5	70	25	△ 20	20	5	70	25	△ 20	
繊維・衣服	10	10	60	30	△ 20	10	0	80	20	△ 20	10	0	80	20	△ 20	
木材・家具	11	9	73	18	△ 9	10	0	80	20	△ 20	10	0	80	20	△ 20	
パルプ・紙	5	0	60	40	△ 40	2	0	100	0	0	2	0	100	0	0	
化学・プラスチック	37	5	87	8	△ 3	44	9	86	5	4	44	9	86	5	4	
窯業・土石	8	0	63	37	△ 37	11	0	91	9	△ 9	11	0	91	9	△ 9	
鉄鋼・非鉄	19	0	74	26	△ 26	20	10	75	15	△ 5	20	10	75	15	△ 5	
金属製品	15	0	87	13	△ 13	16	6	75	19	△ 13	16	6	75	19	△ 13	
一般機械	40	5	75	20	△ 15	43	2	77	21	△ 19	43	2	77	21	△ 19	
電気機械	57	10	60	30	△ 20	57	10	72	18	△ 8	57	5	76	19	△ 14	
輸送用機械	25	0	76	24	△ 24	26	3	85	12	△ 9	26	8	84	8	0	
精密機械	19	0	68	32	△ 32	16	12	50	38	△ 26	16	6	63	31	△ 25	
その他	21	4	67	29	△ 25	14	0	71	29	△ 29	14	0	71	29	△ 29	
計	292	4	72	24	△ 20	289	6	77	17	△ 11	289	5	78	17	△ 12	
卸売業	生産財	11	9	82	9	0	11	18	64	18	0	11	18	55	27	△ 9
	消費財	15	0	67	33	△ 33	16	0	75	25	△ 25	16	6	75	19	△ 13
	計	26	4	73	23	△ 19	27	7	71	22	△ 15	27	11	67	22	△ 11
合計	318	4	72	24	△ 20	316	6	76	18	△ 12	316	6	77	17	△ 11	

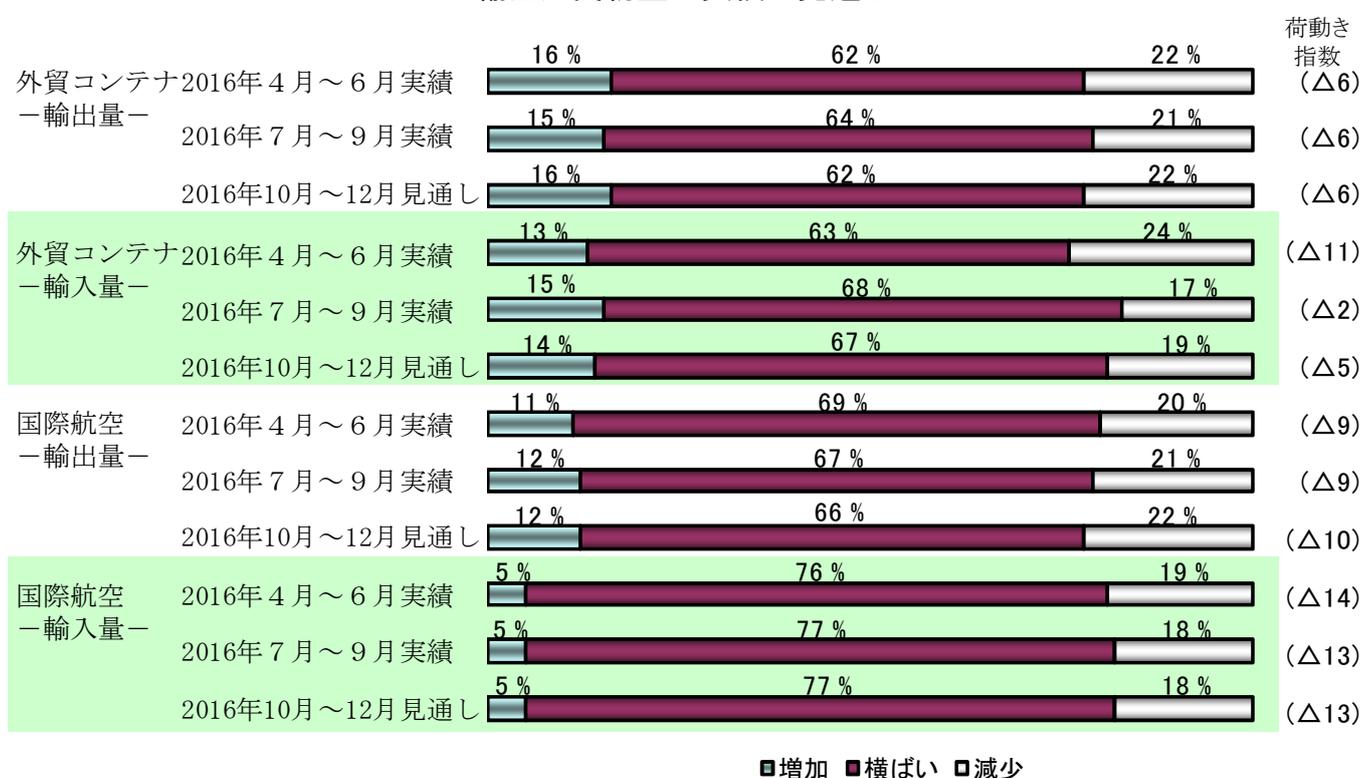
－ 4. 輸出入貨物量の動向－

■ 7～9 月実績（見込み）の『荷動き指数』をみると、外貿コンテナの輸入および国際航空の輸入において前期（4～6 月）実績より上昇する一方、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸出では横ばいで推移した。『荷動き指数』は、引き続きすべての輸送機関でマイナスを示した。

■ 10～12 月の見通しでは、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸入において『荷動き指数』が横ばいで推移する一方、外貿コンテナの輸入および国際航空の輸出では悪化が見込まれる。この結果、引き続きすべての輸送機関で『荷動き指数』はマイナスとなり、総じてみると、荷動き回復に向けての足取りは依然として鈍い。

※今回より、輸送機関ごとに方面別（対アジア、対北米、対欧州）の動向についての調査結果を追加した。

輸出入貨物量の実績と見通し



(1) 外貿コンテナ ー輸出ー

■ 7～9月実績(見込み)の『荷動き指数』は、食料品・飲料など5業種がプラス、繊維・衣服がゼロ水準で、化学・プラスチック、その他の製造業など9業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△6で、前期(4～6月)実績から横ばいで推移した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具、電気機械、精密機械の3業種がマイナスに沈む一方、繊維・衣服および鉄鋼・非鉄がプラスに浮上し、窯業・土石もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△6と横ばいで推移する見通しであり、荷動き減退の動きに変化はないとみられる。

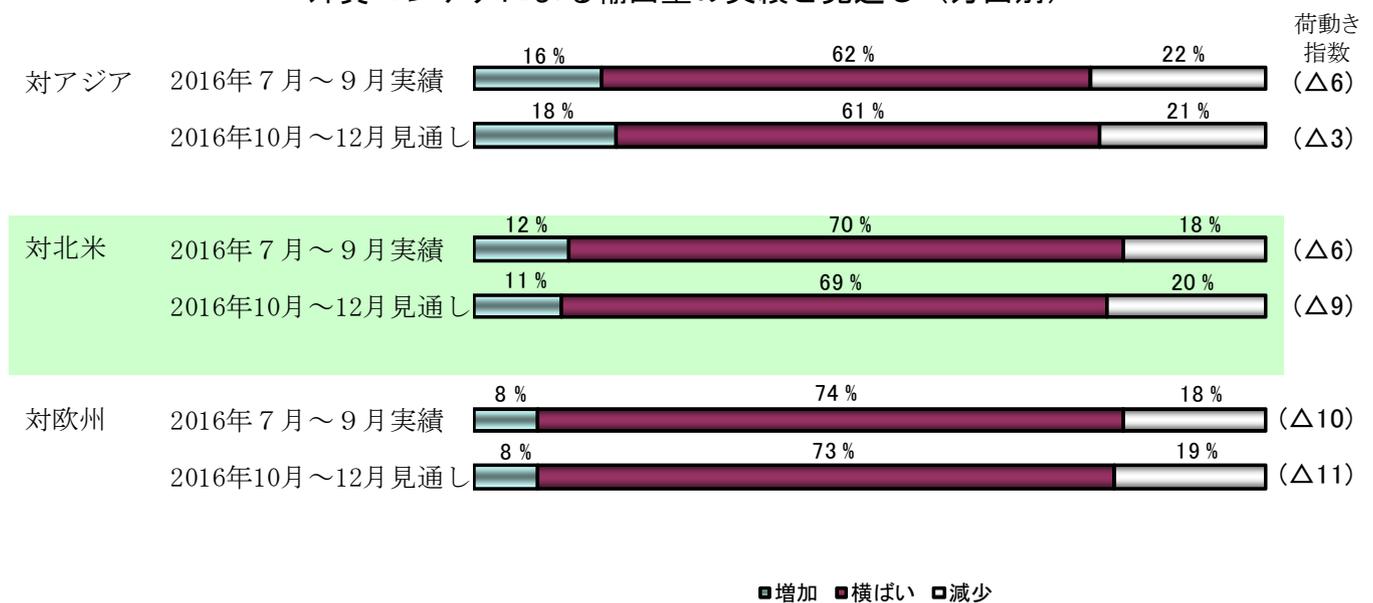
外貿コンテナによる輸出量の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	26	35	58	7	28	22	36	59	5	31	22	32	64	4	28
繊維・衣服	14	29	42	29	0	13	23	54	23	0	13	23	62	15	8
木材・家具	6	33	67	0	33	4	25	75	0	25	4	0	50	50	△50
パルプ・紙	20	20	65	15	5	14	7	64	29	△22	14	7	72	21	△14
化学・プラスチック	62	16	71	13	3	64	8	67	25	△17	64	11	70	19	△8
窯業・土石	16	19	62	19	0	23	17	61	22	△5	23	17	66	17	0
鉄鋼・非鉄	47	13	64	23	△10	45	13	71	16	△3	45	20	64	16	4
金属製品	18	22	78	0	22	19	21	68	11	10	19	26	63	11	15
一般機械	60	20	53	27	△7	60	18	57	25	△7	60	18	50	32	△14
電気機械	55	11	56	33	△22	57	21	60	19	2	57	16	65	19	△3
輸送用機械	55	7	55	38	△31	55	9	71	20	△11	55	18	55	27	△9
精密機械	16	12	69	19	△7	14	36	43	21	15	14	21	50	29	△8
その他	31	16	68	16	0	21	4	67	29	△25	21	4	67	29	△25
計	426	17	61	22	△5	411	16	64	20	△4	411	17	62	21	△4
卸売業															
生産財	8	0	88	12	△12	7	0	71	29	△29	7	0	57	43	△43
消費財	11	9	73	18	△9	10	0	80	20	△20	10	0	80	20	△20
計	19	5	79	16	△11	17	0	76	24	△24	17	0	71	29	△29
合計	445	16	62	22	△6	428	15	64	21	△6	428	16	62	22	△6

■ 7～9月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジアおよび対北米で△6、対欧州では△10となった。総じて荷動きは低調であるが、なかでも対欧州において荷動き減退の動きが強い。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、対アジアにおいて3ポイント改善し、荷動き減退の動きは弱まる。一方、対北米では3ポイント低下し、対欧州でも弱含み横ばいで推移する見込みであり、荷動き減退の動きが強まるとみられる。

外貨コンテナによる輸出量の実績と見通し（方面別）



(2) 外貿コンテナ ー輸入ー

■ 7～9月実績(見込み)の『荷動き指数』は、食料品・飲料など5業種がプラス、パルプ・紙および金属製品がゼロ水準で、その他の製造業、生産財卸など8業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△2で、前期(4～6月)実績から9ポイント上昇した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がプラスに浮上し、電気機械および消費財卸もゼロ水準まで戻す一方、化学・プラスチックがマイナスに沈み、精密機械もゼロ水準に下降するほか、一般機械、輸送用機械などでもマイナス幅が拡大する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△5と3ポイント低下する見通しであり、荷動き減退の動きはやや強まるとみられる。

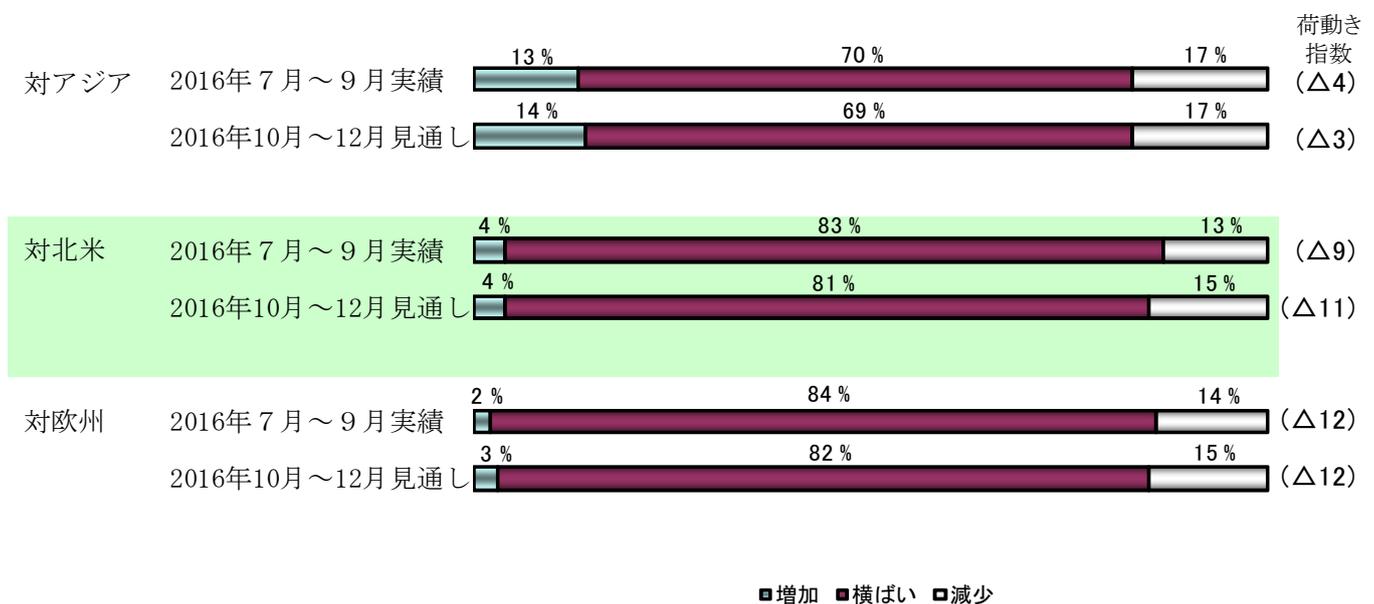
外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	26	15	58	27	△12	21	29	57	14	15	21	29	57	14	15
繊維・衣服	14	14	57	29	△15	13	31	46	23	8	13	38	38	24	14
木材・家具	12	17	58	25	△8	11	9	55	36	△27	11	18	55	27	△9
パルプ・紙	13	15	54	31	△16	6	17	66	17	0	6	17	66	17	0
化学・プラスチック	57	9	77	14	△5	55	16	73	11	5	55	18	62	20	△2
製 窯業・土石	16	19	62	19	0	21	14	81	5	9	21	14	76	10	4
鉄鋼・非鉄	29	14	62	24	△10	27	22	48	30	△8	27	26	52	22	4
製 金属製品	16	25	75	0	25	19	11	78	11	0	19	5	90	5	0
一般機械	61	16	63	21	△5	60	13	69	18	△5	60	10	65	25	△15
電気機械	53	8	60	32	△24	55	12	73	15	△3	55	11	78	11	0
輸送用機械	53	9	65	26	△17	55	12	73	15	△3	55	11	73	16	△5
精密機械	17	11	71	18	△7	14	14	79	7	7	14	14	72	14	0
その他	25	20	52	28	△8	23	9	61	30	△21	23	13	65	22	△9
計	392	13	64	23	△10	380	15	68	17	△2	380	15	67	18	△3
卸 生産財	11	9	46	45	△36	11	0	64	36	△36	11	0	45	55	△55
消費財	15	27	46	27	0	13	8	77	15	△7	13	15	70	15	0
計	26	19	46	35	△16	24	4	71	25	△21	24	8	59	33	△25
合計	418	13	63	24	△11	404	15	68	17	△2	404	14	67	19	△5

■ 7～9月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジアにおいて△4、対北米で△9、対欧州では△12となった。総じて荷動きは低調であるが、なかでも対欧州において荷動き減退の動きが強い。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、対アジアにおいて強含み横ばいで推移し、荷動き減退の動きはいくぶん弱まる。一方、対欧州で横ばい、対北米では2ポイント低下する見込みであり、荷動き減退の動きが続くとみられる。

外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し（方面別）



(3) 国際航空 —輸出—

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、鉄鋼・非鉄およびその他の製造業がプラス、木材・家具、パルプ・紙、生産財卸の3業種がゼロ水準で、化学・プラスチック、電気機械など10業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△9で、前期（4～6月）実績から横ばいで推移した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、金属製品がゼロ水準まで戻す一方、生産財卸がマイナスに沈み、その他の製造業もゼロ水準に下降する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△10と弱含み横ばいで推移する見通しであり、荷動きは引き続き減退するとみられる。

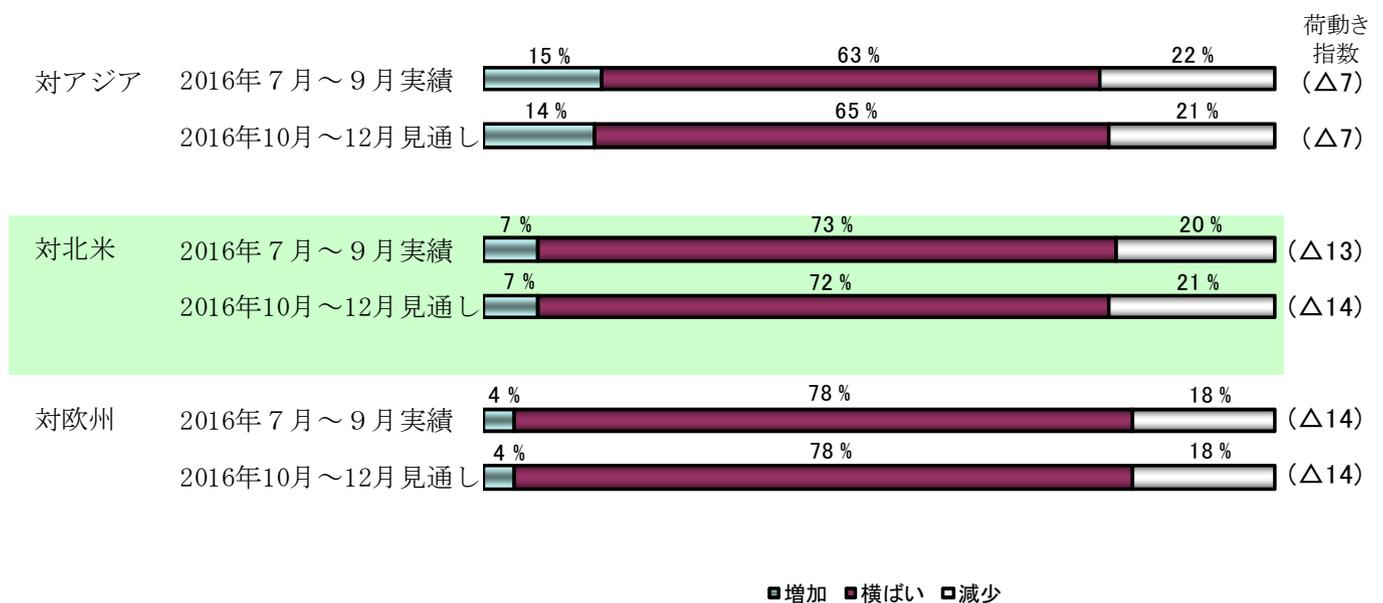
国際航空による輸出量の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	10	0	90	10	△10	3	0	67	33	△33	3	0	67	33	△33	
繊維・衣服	8	13	74	13	0	12	0	67	33	△33	12	0	83	17	△17	
木材・家具	4	0	100	0	0	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0	
パルプ・紙	2	0	100	0	0	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0	
化学・プラスチック	41	17	71	12	5	36	8	73	19	△11	36	11	70	19	△8	
窯業・土石	12	8	50	42	△34	12	8	67	25	△17	12	8	67	25	△17	
鉄鋼・非鉄	26	15	66	19	△4	26	23	62	15	8	26	19	66	15	4	
金属製品	16	13	81	6	7	13	8	77	15	△7	13	15	70	15	0	
一般機械	60	11	72	17	△6	51	15	63	22	△7	51	18	57	25	△7	
電気機械	65	10	62	28	△18	62	14	60	26	△12	62	13	61	26	△13	
輸送用機械	43	16	63	21	△5	33	6	82	12	△6	32	9	75	16	△7	
精密機械	22	5	68	27	△22	17	12	59	29	△17	17	6	65	29	△23	
その他	16	12	69	19	△7	11	18	73	9	9	11	18	64	18	0	
計	325	12	68	20	△8	278	12	67	21	△9	277	12	66	22	△10	
卸売業	生産財	10	20	70	10	10	8	13	74	13	0	8	12	63	25	△13
	消費財	8	0	75	25	△25	8	0	75	25	△25	8	0	88	12	△12
	計	18	11	72	17	△6	16	6	75	19	△13	16	6	75	19	△13
合計	343	11	69	20	△9	294	12	67	21	△9	293	12	66	22	△10	

■ 7～9月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジアにおいて△7、対北米で△13、対欧州では△14となった。総じて荷動きは低調であるが、なかでも対北米および対欧州において荷動き減退の動きが強い。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、対アジアおよび対欧州において横ばい、対北米では弱含み横ばいで推移する見込みであり、荷動き減退の動きが続くとみられる。

国際航空による輸出货量の実績と見通し（方面別）



(4) 国際航空 — 輸入 —

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、その他の製造業が唯一プラスを示し、食料品・飲料など4業種がゼロ水準で、一般機械、電気機械など10業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△13で、前期（4～6月）実績から強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、食料品・飲料がマイナスに沈み、その他の製造業もゼロ水準に下降する一方、化学・プラスチック、電気機械、消費財卸の3業種においてマイナス幅が縮小する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△13と横ばいで推移する見通しであり、荷動きは引き続き減退するとみられる。

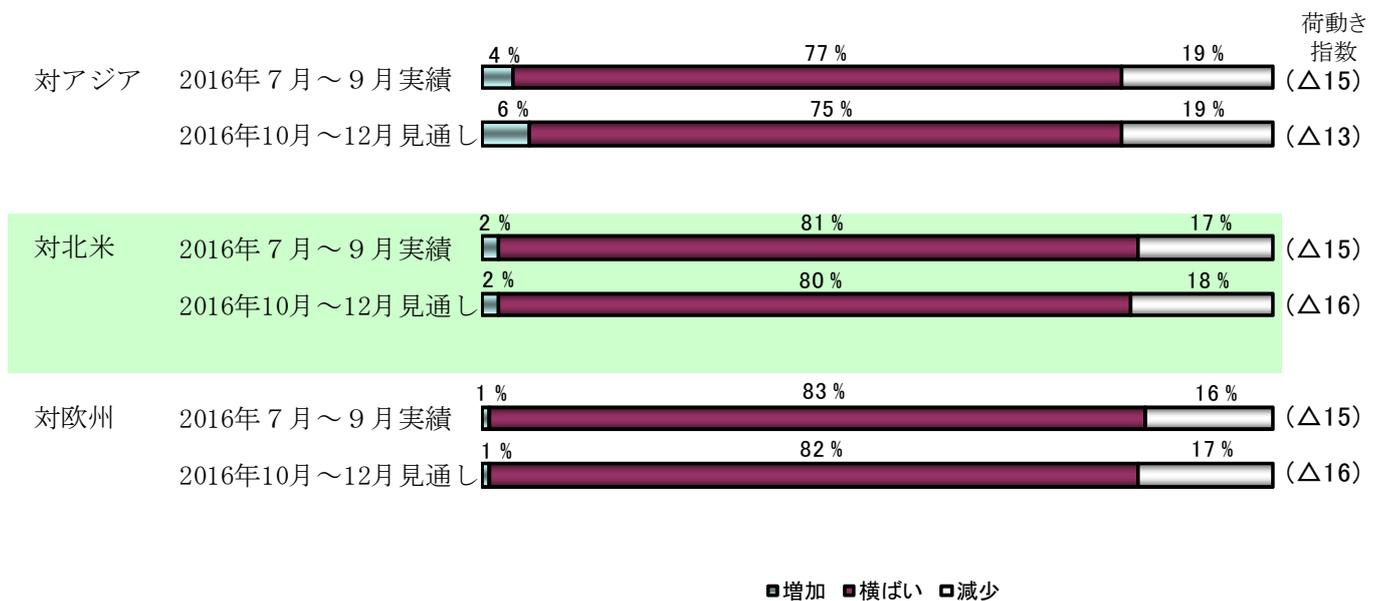
国際航空による輸入量の実績と見通し

業 種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	8	0	100	0	0	3	33	33	33	0	3	0	67	33	△ 33	
繊維・衣服	7	0	71	29	△ 29	9	0	78	22	△ 22	9	0	78	22	△ 22	
木材・家具	4	0	100	0	0	1	0	100	0	0	1	0	100	0	0	
パルプ・紙	1	0	100	0	0	2	0	100	0	0	2	0	100	0	0	
化学・プラスチック	32	6	85	9	△ 3	34	3	82	15	△ 12	34	6	79	15	△ 9	
窯業・土石	9	0	78	22	△ 22	8	0	88	12	△ 12	8	0	88	12	△ 12	
鉄鋼・非鉄	19	5	79	16	△ 11	19	5	84	11	△ 6	19	5	84	11	△ 6	
金属製品	13	0	92	8	△ 8	10	0	100	0	0	10	0	100	0	0	
一般機械	50	2	82	16	△ 14	46	7	63	30	△ 23	46	4	63	33	△ 29	
電気機械	53	11	59	30	△ 19	48	6	73	21	△ 15	48	6	75	19	△ 13	
輸送用機械	44	7	70	23	△ 16	33	3	85	12	△ 9	32	6	78	16	△ 10	
精密機械	22	9	68	23	△ 14	17	11	71	18	△ 7	17	6	76	18	△ 12	
その他	15	13	74	13	0	10	20	70	10	10	10	10	80	10	0	
計	277	6	75	19	△ 13	240	6	76	18	△ 12	239	5	77	18	△ 13	
卸売業	生産財	8	0	75	25	△ 25	9	0	89	11	△ 11	9	0	89	11	△ 11
	消費財	10	0	90	10	△ 10	13	0	77	23	△ 23	13	8	69	23	△ 15
	計	18	0	83	17	△ 17	22	0	82	18	△ 18	22	5	77	18	△ 13
合計	295	5	76	19	△ 14	262	5	77	18	△ 13	261	5	77	18	△ 13	

■ 7～9月の方面別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、対アジア、対北米、対欧州のいずれにおいても△15となり、全方面で荷動きは低調となった。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、対アジアにおいて2ポイント上昇する一方、対北米および対欧州では弱含み横ばいで推移する見込みであり、全方面で荷動き減退の動きが続くとみられる。

国際航空による輸入量の実績と見通し（方面別）

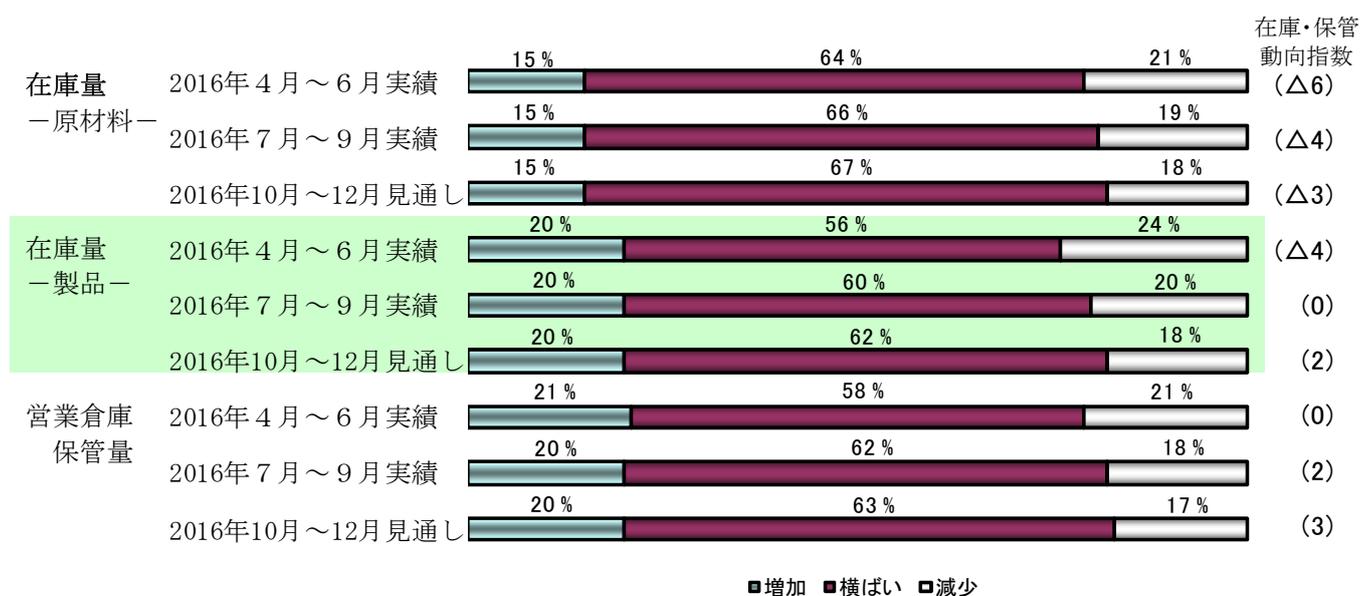


－ 5. 在庫量と営業倉庫利用の動向－

■ 7～9月実績（見込み）の在庫量と営業倉庫保管量の動向をみると、すべての『動向指数』が前期（4～6月）実績より上昇した。この結果、**営業倉庫保管量**において『動向指数』がプラス、**製品在庫**でゼロ水準、**原材料在庫**ではマイナスとなり、ややバラツキがみられる。

■ 10～12月の見通しについては、すべての『動向指数』が上昇する見込みである。この結果、**製品在庫**および**営業倉庫保管量**では『動向指数』がプラス、**原材料在庫**では小幅なマイナスとなり、在庫調整の遅れがうかがえる。

在庫量と営業倉庫保管量の実績と見通し



(1) 在庫量 —原材料—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、木材・家具、化学・プラスチックなど6業種がプラス、消費財卸がゼロ水準で、鉄鋼・非鉄、電気機械など8業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』は△4で、前期（4～6月）実績から2ポイント上昇した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、消費財卸がマイナスに沈み、木材・家具もゼロ水準に下降する一方、食料品・飲料、金属製品など6業種において上昇の動きがみられる。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は△3と強含み横ばいで推移する見通しで、原材料在庫は縮小するものの、縮小の動きはいくぶん弱まるとみられる。

在庫量（原材料）の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	87	13	67	20	△7	90	14	62	24	△10	90	17	61	22	△5	
繊維・衣服	34	24	50	26	△2	32	16	53	31	△15	32	16	50	34	△18	
木材・家具	35	20	66	14	6	37	27	57	16	11	37	19	62	19	0	
パルプ・紙	47	30	68	2	28	40	10	83	7	3	40	10	85	5	5	
化学・プラスチック	104	21	64	15	6	104	19	66	15	4	104	19	65	16	3	
窯業・土石	38	5	77	18	△13	36	11	75	14	△3	36	8	78	14	△6	
鉄鋼・非鉄	94	15	65	20	△5	88	10	66	24	△14	88	8	72	20	△12	
金属製品	47	13	72	15	△2	45	16	71	13	3	45	18	73	9	9	
一般機械	86	12	60	28	△16	84	14	69	17	△3	84	12	69	19	△7	
電気機械	98	8	64	28	△20	97	14	61	25	△11	97	16	60	24	△8	
輸送用機械	91	6	64	30	△24	89	15	73	12	3	89	13	76	11	2	
精密機械	28	14	54	32	△18	27	22	48	30	△8	27	11	63	26	△15	
その他	53	17	66	17	0	52	12	71	17	△5	52	12	69	19	△7	
計	842	14	65	21	△7	821	15	66	19	△4	821	14	68	18	△4	
卸売業	生産財	25	28	56	16	12	28	21	65	14	7	28	29	57	14	15
	消費財	32	22	56	22	0	31	16	68	16	0	31	13	71	16	△3
	計	57	25	56	19	6	59	19	66	15	4	59	20	65	15	5
合計	899	15	64	21	△6	880	15	66	19	△4	880	15	67	18	△3	

(2) 在庫量 —製品—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、パルプ・紙、金属製品など6業種がプラス、木材・家具および精密機械ゼロ水準で、鉄鋼・非鉄、電気機械など7業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』はゼロ水準で、前期（4～6月）実績から4ポイント上昇した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、精密機械および消費財卸がマイナスに沈む一方、電気機械、輸送用機械など7業種において上昇の動きがみられる。この結果、業種全体の『在庫動向指数』はプラス2と2ポイント上昇する見通しで、製品在庫は小幅ながら拡大に転じるとみられる。

在庫量（製品）の実績と見通し

業 種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	90	20	56	24	△4	96	20	55	25	△5	96	20	57	23	△3	
繊維・衣服	32	25	47	28	△3	32	25	44	31	△6	32	22	47	31	△9	
木材・家具	33	21	46	33	△12	39	23	54	23	0	39	21	58	21	0	
パルプ・紙	49	33	51	16	17	42	31	64	5	26	42	29	67	4	25	
化学・プラスチック	111	31	55	14	17	109	24	59	17	7	110	25	60	15	10	
窯業・土石	38	26	48	26	0	35	14	69	17	△3	35	11	75	14	△3	
鉄鋼・非鉄	95	22	50	28	△6	92	16	58	26	△10	92	14	66	20	△6	
金属製品	49	12	70	18	△6	49	31	57	12	19	49	35	55	10	25	
一般機械	90	15	58	27	△12	87	16	60	24	△8	87	19	59	22	△3	
電気機械	101	15	52	33	△18	102	14	62	24	△10	102	19	59	22	△3	
輸送用機械	92	7	67	26	△19	91	13	64	23	△10	91	14	70	16	△2	
精密機械	31	9	68	23	△14	26	27	46	27	0	26	15	58	27	△12	
その他	59	22	59	19	3	53	23	64	13	10	53	19	64	17	2	
計	870	20	56	24	△4	853	20	59	21	△1	854	20	61	19	1	
卸売業	生産財	38	26	53	21	5	39	23	62	15	8	39	23	62	15	8
	消費財	42	26	55	19	7	42	17	71	12	5	42	12	71	17	△5
	計	80	26	54	20	6	81	20	67	13	7	81	17	67	16	1
合計	950	20	56	24	△4	934	20	60	20	0	935	20	62	18	2	

(3) 営業倉庫保管量

■ 7～9月実績（見込み）の『保管動向指数』は、パルプ・紙、一般機械など8業種がプラス、食料品・飲料および鉄鋼・非鉄がゼロ水準で、消費財卸など5業種がマイナスとなった。業種全体の『保管動向指数』はプラス2で、前期（4～6月）実績から2ポイント上昇した。

■ 10～12月の『保管動向指数』見通しでは、その他の製造業がマイナスに沈み、一般機械がゼロ水準に下降する一方、食料品・飲料および鉄鋼・非鉄がプラスに浮上し、窯業・土石もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『保管動向指数』はプラス3と強含み横ばいで推移する見通しであり、営業倉庫保管量はわずかながら増加の動きが続くとみられる。

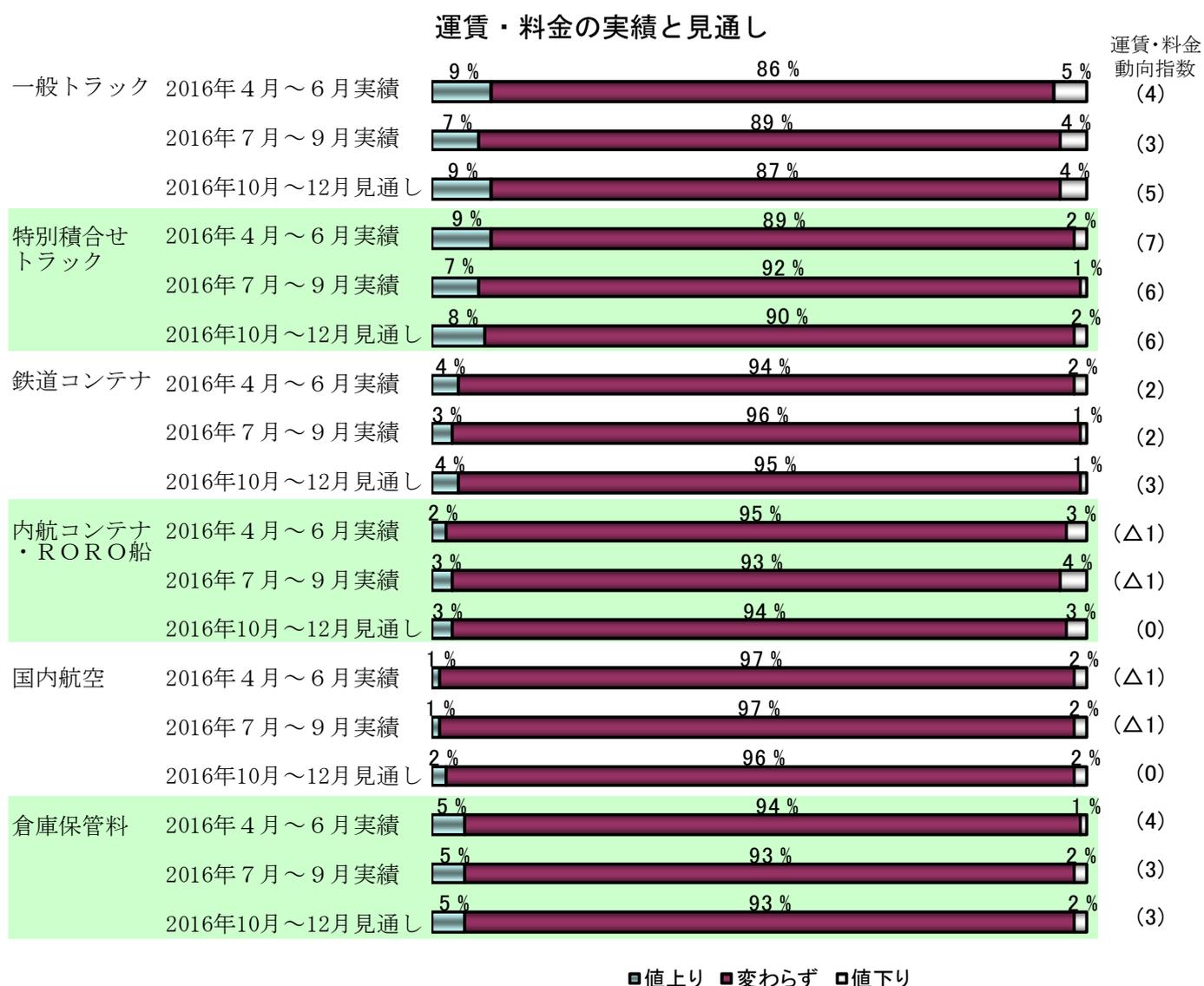
営業倉庫保管量の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	79	21	56	23	△2	80	20	60	20	0	80	25	58	17	8	
繊維・衣服	17	41	41	18	23	17	24	47	29	△5	17	30	35	35	△5	
木材・家具	28	14	50	36	△22	30	20	57	23	△3	30	10	63	27	△17	
パルプ・紙	43	30	54	16	14	37	30	57	13	17	37	30	59	11	19	
化学・プラスチック	90	32	56	12	20	95	21	60	19	2	95	21	62	17	4	
窯業・土石	23	22	56	22	0	23	9	78	13	△4	23	17	66	17	0	
鉄鋼・非鉄	74	15	62	23	△8	68	13	74	13	0	68	13	78	9	4	
金属製品	27	11	67	22	△11	28	21	65	14	7	28	25	68	7	18	
一般機械	63	16	68	16	0	60	25	58	17	8	60	20	60	20	0	
電気機械	71	11	61	28	△17	70	24	57	19	5	70	27	57	16	11	
輸送用機械	70	15	56	29	△14	73	15	67	18	△3	73	15	63	22	△7	
精密機械	18	11	67	22	△11	18	28	50	22	6	18	28	50	22	6	
その他	45	20	58	22	△2	39	18	67	15	3	39	13	72	15	△2	
計	648	20	58	22	△2	638	20	62	18	2	638	21	62	17	4	
卸売業	生産財	31	32	49	19	13	33	21	67	12	9	33	24	61	15	9
	消費財	43	26	56	18	8	35	11	66	23	△12	35	8	69	23	△15
	計	74	28	53	19	9	68	16	66	18	△2	68	16	65	19	△3
合計	722	21	58	21	0	706	20	62	18	2	706	20	63	17	3	

－ 6. 運賃・料金の動向－

■ 7～9月の運賃・料金水準『動向指数』実績（見込み）は、鉄道コンテナ、内航コンテナ・RORO船、国内航空において前期（4～6月）実績から横ばいで推移する一方、一般トラック、特別積合せトラック、倉庫保管料では低下した。『動向指数』は、内航コンテナ・RORO船および国内航空以外の機関においてプラスとなった。

■ 10～12月の『動向指数』見通しについては、特別積合せトラックおよび倉庫保管料において横ばいで推移する一方、その他の機関では小幅ながら上昇する。この結果、内航コンテナ・RORO船および国内航空で『動向指数』がゼロ水準にとどまる以外は、残りの4機関ではプラスを維持し、運賃・料金の緩やかな上昇基調に変化はない。



(1) 一般トラック運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料、消費財卸など8業種がプラス、化学・プラスチック、精密機械、その他の製造業の3業種がゼロ水準で、鉄鋼・非鉄など4業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス3で、前期(4～6月)実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、化学・プラスチックなど4業種がプラスに浮上し、木材・家具および輸送用機械もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス5と2ポイント上昇する見通しであり、運賃水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

一般トラック運賃の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	100	17	81	2	15	103	18	80	2	16	103	19	78	3	16
繊維・衣服	30	13	87	0	13	29	7	93	0	7	29	10	90	0	10
木材・家具	37	5	81	14	△9	39	5	87	8	△3	39	8	84	8	0
パルプ・紙	50	4	94	2	2	44	5	95	0	5	44	7	91	2	5
化学・プラスチック	108	6	90	4	2	113	6	88	6	0	112	10	85	5	5
窯業・土石	38	5	90	5	0	35	0	97	3	△3	34	3	97	0	3
鉄鋼・非鉄	98	9	73	18	△9	93	8	80	12	△4	93	8	80	12	△4
金属製品	55	9	89	2	7	49	4	94	2	2	49	6	94	0	6
一般機械	95	6	92	2	4	89	4	94	2	2	89	4	95	1	3
電気機械	109	5	92	3	2	101	6	91	3	3	101	7	90	3	4
輸送用機械	96	7	87	6	1	96	4	90	6	△2	96	4	92	4	0
精密機械	29	10	83	7	3	27	7	86	7	0	27	15	78	7	8
その他	60	5	90	5	0	55	4	92	4	0	55	5	93	2	3
計	905	8	87	5	3	873	7	89	4	3	871	8	88	4	4
卸売業															
生産財	38	11	89	0	11	42	10	90	0	10	42	12	88	0	12
消費財	51	20	80	0	20	46	15	85	0	15	46	20	80	0	20
計	89	16	84	0	16	88	12	88	0	12	88	16	84	0	16
合計	994	9	86	5	4	961	7	89	4	3	959	9	87	4	5

(2) 特別積合せトラック運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、マイナスの業種は皆無で、木材・家具、輸送用機械、精密機械の3業種がゼロ水準にとどまり、残り12業種がプラスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス6で、前期（4～6月）実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄および輸送用機械がマイナスに沈み、パルプ・紙および電気機械もゼロ水準に沈む一方、食料品・飲料、その他の製造業など5業種において上昇が見込まれる。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス6と横ばいで推移する見通しであり、運賃水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

特別積合せトラック運賃の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	70	14	86	0	14	68	13	87	0	13	68	19	81	0	19	
繊維・衣服	26	12	85	3	9	25	12	84	4	8	25	8	88	4	4	
木材・家具	25	0	96	4	△4	27	4	92	4	0	27	4	92	4	0	
パルプ・紙	31	6	94	0	6	23	4	96	0	4	23	4	92	4	0	
化学・プラスチック	93	14	83	3	11	102	10	88	2	8	102	11	87	2	9	
窯業・土石	28	11	89	0	11	24	4	96	0	4	24	4	96	0	4	
鉄鋼・非鉄	64	3	89	8	△5	67	4	93	3	1	67	3	93	4	△1	
金属製品	38	11	87	2	9	36	8	92	0	8	36	6	94	0	6	
一般機械	66	2	96	2	0	67	1	99	0	1	67	3	97	0	3	
電気機械	90	6	92	2	4	87	5	93	2	3	88	3	94	3	0	
輸送用機械	75	7	88	5	2	72	3	94	3	0	72	2	92	6	△4	
精密機械	23	4	92	4	0	20	5	90	5	0	20	5	90	5	0	
その他	46	9	89	2	7	42	5	95	0	5	42	10	90	0	10	
計	675	8	89	3	5	660	6	92	2	4	661	7	91	2	5	
卸売業	生産財	31	13	84	3	10	32	12	88	0	12	32	12	88	0	12
	消費財	37	19	81	0	19	34	15	85	0	15	33	18	82	0	18
	計	68	16	83	1	15	66	14	86	0	14	65	15	85	0	15
合計	743	9	89	2	7	726	7	92	1	6	726	8	90	2	6	

(3) 鉄道コンテナ運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、精密機械が唯一マイナスを示し、化学・プラスチック、輸送用機械など8業種がプラスで、繊維・衣服など6業種がゼロ水準となった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス2で、前期（4～6月）実績から横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、窯業・土石および電気機械がマイナスに沈み、生産財卸もゼロ水準に下降する一方、繊維・衣服がプラスに浮上するなど4業種において上昇が見込まれる。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス3と強含み横ばいで推移する見通しであり、運賃水準の上昇圧力はわずかながら強まるとみられる。

鉄道コンテナ運賃の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	51	8	92	0	8	43	2	98	0	2	43	5	93	2	3	
繊維・衣服	11	18	82	0	18	10	0	100	0	0	10	10	90	0	10	
木材・家具	16	0	100	0	0	17	0	100	0	0	17	0	100	0	0	
パルプ・紙	31	6	94	0	6	28	4	96	0	4	28	14	86	0	14	
化学・プラスチック	80	4	95	1	3	84	4	96	0	4	82	4	96	0	4	
窯業・土石	12	8	84	8	0	16	6	88	6	0	16	0	94	6	△6	
鉄鋼・非鉄	39	3	97	0	3	40	2	98	0	2	40	2	98	0	2	
金属製品	24	0	92	8	△8	22	0	100	0	0	22	0	100	0	0	
一般機械	32	0	100	0	0	30	0	100	0	0	30	0	100	0	0	
電気機械	41	0	100	0	0	34	0	100	0	0	35	0	97	3	△3	
輸送用機械	37	8	84	8	0	33	6	91	3	3	33	6	91	3	3	
精密機械	15	0	93	7	△7	12	0	92	8	△8	12	0	92	8	△8	
その他	33	3	94	3	0	21	5	95	0	5	21	5	95	0	5	
計	422	4	94	2	2	390	2	97	1	1	389	4	95	1	3	
卸売業	生産財	10	20	70	10	10	9	11	89	0	11	9	0	100	0	0
	消費財	20	5	95	0	5	18	6	94	0	6	18	17	83	0	17
	計	30	10	87	3	7	27	7	93	0	7	27	11	89	0	11
合計	452	4	94	2	2	417	3	96	1	2	416	4	95	1	3	

(4) 内航コンテナ・RORO運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、食料品・飲料が唯一プラスを示し、繊維・衣服など10業種がゼロ水準で、パルプ・紙など4業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』は△1で、前期（4～6月）実績から横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がマイナスに沈む一方、輸送用機械がプラスに浮上し、電気機械がゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準と強含み横ばいで推移する見通しであり、運賃水準は横ばいになるとみられる。

内航コンテナ・RORO運賃の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	34	9	88	3	6	26	12	85	3	9	26	12	88	0	12	
繊維・衣服	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0	
木材・家具	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0	
パルプ・紙	22	5	86	9	△4	20	5	80	15	△10	20	10	75	15	△5	
化学・プラスチック	56	0	100	0	0	62	0	95	5	△5	61	0	97	3	△3	
窯業・土石	7	0	100	0	0	12	0	100	0	0	12	0	100	0	0	
鉄鋼・非鉄	26	0	85	15	△15	23	4	92	4	0	23	0	96	4	△4	
金属製品	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0	
一般機械	30	0	100	0	0	29	0	100	0	0	29	0	100	0	0	
電気機械	39	0	100	0	0	34	3	91	6	△3	34	3	94	3	0	
輸送用機械	27	4	89	7	△3	28	7	86	7	0	28	7	89	4	3	
精密機械	14	0	93	7	△7	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10	
その他	25	0	96	4	△4	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0	
計	311	1	95	4	△3	290	3	93	4	△1	289	3	94	3	0	
卸売業	生産財	5	0	100	0	0	5	0	100	0	0	5	0	100	0	0
	消費財	11	0	100	0	0	12	0	100	0	0	12	0	100	0	0
	計	16	0	100	0	0	17	0	100	0	0	17	0	100	0	0
合計	327	2	95	3	△1	307	3	93	4	△1	306	3	94	3	0	

(5) 国内航空運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、パルプ・紙が唯一プラスを示し、食料品・飲料など10業種がゼロ水準で、精密機械など4業種がゼロ水準となった。業種全体の『運賃動向指数』は△1で、前期（4～6月）実績から横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、輸送用機械がマイナスに沈む一方、食料品・飲料およびその他の製造業がプラスに浮上し、精密機械がゼロ水準まで戻す以外に動きはみられない。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準と強含み横ばいで推移する見通しであり、運賃水準は横ばいになるとみられる。

国内航空運賃の実績と見通し

業種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	23	4	96	0	4	17	6	88	6	0	18	11	83	6	5	
繊維・衣服	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0	
木材・家具	11	0	100	0	0	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0	
パルプ・紙	7	14	86	0	14	2	50	50	0	50	2	50	50	0	50	
化学・プラスチック	39	3	97	0	3	45	0	98	2	△2	45	0	98	2	△2	
窯業・土石	8	0	100	0	0	11	0	100	0	0	11	0	100	0	0	
鉄鋼・非鉄	20	0	100	0	0	21	0	100	0	0	21	0	100	0	0	
金属製品	16	0	100	0	0	16	0	94	6	△6	16	0	94	6	△6	
一般機械	41	0	98	2	△2	43	0	100	0	0	43	0	100	0	0	
電気機械	60	0	95	5	△5	56	0	98	2	△2	56	0	98	2	△2	
輸送用機械	27	0	96	4	△4	27	0	100	0	0	27	0	96	4	△4	
精密機械	20	0	90	10	△10	17	0	88	12	△12	17	12	76	12	0	
その他	23	0	100	0	0	15	0	100	0	0	15	7	93	0	7	
計	304	1	97	2	△1	288	1	97	2	△1	289	2	96	2	0	
卸売業	生産財	12	0	100	0	0	11	0	100	0	0	11	0	100	0	0
	消費財	16	0	100	0	0	15	0	100	0	0	15	0	100	0	0
	計	28	0	100	0	0	26	0	100	0	0	26	0	100	0	0
合計	332	1	97	2	△1	314	1	97	2	△1	315	2	96	2	0	

(6) 営業倉庫保管料金

■ 7～9 月実績（見込み）の『料金動向指数』は、食料品・飲料、パルプ・紙など7業種がプラス、窯業・土石、電気機械、その他の製造業の3業種がゼロ水準で、消費財卸など5業種がマイナスとなった。業種全体の『料金動向指数』はプラス3で、前期(4～6月)実績から弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『料金動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄および金属製品がゼロ水準まで戻し、消費財卸に上昇が見込まれる一方、木材・家具および一般機械において低下する以外に動きはみられない。業種全体の『料金動向指数』はプラス3と横ばいの推移が見込まれ、料金水準の緩やかな上昇が続くとみられる。

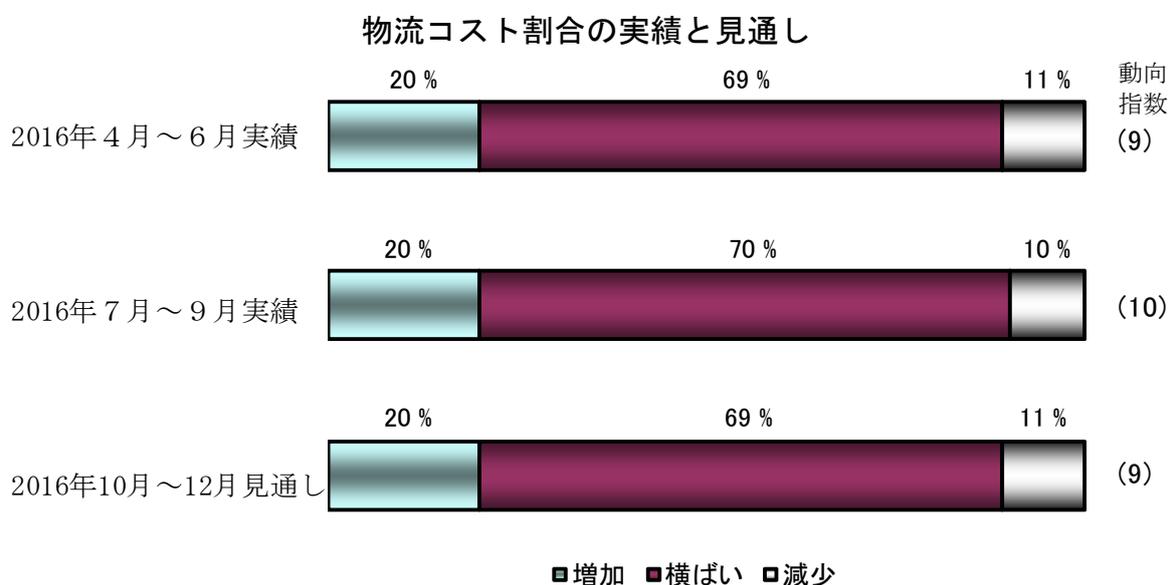
営業倉庫保管料金の実績と見通し

業 種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	69	6	94	0	6	68	12	88	0	12	68	12	88	0	12	
繊維・衣服	13	15	85	0	15	13	15	85	0	15	13	15	85	0	15	
木材・家具	22	9	91	0	9	21	14	86	0	14	21	10	90	0	10	
パルプ・紙	40	5	95	0	5	33	12	88	0	12	33	15	82	3	12	
化学・プラスチック	86	7	90	3	4	87	3	97	0	3	87	3	97	0	3	
窯業・土石	16	6	94	0	6	19	0	100	0	0	19	0	100	0	0	
鉄鋼・非鉄	60	0	98	2	△2	54	0	98	2	△2	54	2	96	2	0	
金属製品	23	0	96	4	△4	27	0	96	4	△4	27	4	92	4	0	
一般機械	58	3	97	0	3	56	0	98	2	△2	56	0	96	4	△4	
電気機械	64	0	100	0	0	73	4	92	4	0	73	4	92	4	0	
輸送用機械	61	5	93	2	3	59	7	90	3	4	58	7	90	3	4	
精密機械	15	7	86	7	0	14	0	93	7	△7	14	0	93	7	△7	
その他	37	8	89	3	5	33	0	100	0	0	33	0	100	0	0	
計	564	5	94	1	4	557	5	94	1	4	556	5	93	2	3	
卸売業	生産財	28	4	96	0	4	27	7	93	0	7	27	7	93	0	7
	消費財	33	15	82	3	12	25	0	92	8	△8	25	0	96	4	△4
	計	61	10	89	1	9	52	4	92	4	0	52	4	94	2	2
合計	625	5	94	1	4	609	5	93	2	3	608	5	93	2	3	

－ 7. 物流コスト割合の動向－

■ 売上高に対する物流コスト割合の動向について、7～9月実績（見込み）の『動向指数』は、全15業種がプラスとなった。業種全体の『動向指数』はプラス10で、前期（4～6月）実績から強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『動向指数』見通しでは、輸送用機械がマイナスに沈み、木材・家具もゼロ水準に下降する。この結果、業種全体の『動向指数』はプラス9と弱含み横ばいの推移が見込まれ、物流コスト割合の上昇圧力は依然として強いものの、やや一服感がみられる。



物流コスト割合の実績と見通し

業 種	2016年4月～6月実績					2016年7月～9月実績					2016年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			動向指数	回答社数	構成比(%)			動向指数	回答社数	構成比(%)			動向指数
		上昇	不変	下降			上昇	不変	下降			上昇	不変	下降	
食料品・飲料	100	29	63	8	21	101	26	64	10	16	101	28	63	9	19
繊維・衣服	37	24	65	11	13	34	24	65	11	13	34	24	62	14	10
木材・家具	37	14	70	16	△ 2	39	18	69	13	5	39	21	58	21	0
パルプ・紙	49	16	72	12	4	43	16	77	7	9	43	21	72	7	14
化学・プラスチック	109	21	70	9	12	114	18	76	6	12	114	18	76	6	12
窯業・土石	37	8	87	5	3	38	16	76	8	8	38	16	76	8	8
鉄鋼・非鉄	98	17	72	11	6	94	14	74	12	2	94	16	72	12	4
金属製品	53	17	68	15	2	52	19	73	8	11	52	29	62	9	20
一般機械	96	15	76	9	6	92	18	73	9	9	92	15	74	11	4
電気機械	115	21	63	16	5	110	21	65	14	7	110	19	66	15	4
輸送用機械	98	22	64	14	8	98	16	72	12	4	96	11	73	16	△ 5
精密機械	31	10	80	10	0	29	21	66	13	8	29	17	69	14	3
その他	61	18	67	15	3	55	18	69	13	5	55	24	64	12	12
計	921	19	69	12	7	899	19	71	10	9	897	19	69	12	7
卸売業															
生産財	40	33	55	12	21	45	29	56	15	14	45	31	62	7	24
消費財	53	26	68	6	20	47	32	60	8	24	47	30	62	8	22
計	93	29	62	9	20	92	30	58	12	18	92	30	62	8	22
合計	1,014	20	69	11	9	991	20	70	10	10	989	20	69	11	9